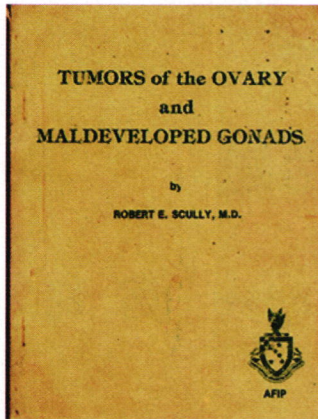


# ふてしこ

# 3

'20  
No.292

巡回通信誌



Tumors of the Ovary  
and  
Maldeveloped Gonads

## 性腺の形成異常

名誉院長 西 田 敬

版を重ねても好評だった Ancel Blaustenの婦人科病理学書、Pathology of the Female Genital Tractを、今回は腫瘍学を中心に据えて組み直し、外見も一新して、hardcoverから上質紙を用いては居るが、trade paperbackに差し替えた。将に換骨奪胎してcompactな廉価版にした。即ち、939 page から成るhardcoverの大冊を、単なる413ページのスマートなtrade paperbackへ改作、文字通りの減量化を図り、20世紀が生んだ画期的な婦人科病理の教科

書が完成した。謂わばepoch making text bookと云える傑作。編纂者はRE Scullyで、発行所は米国のAFIP（陸軍病理学研究所）というから厳めしい。

解体新書から想起すれば久々に日本人が手にする舶来の教科書。抑々、性腺の異常形成 (maldeveloped gonads) とは何ぞや？聞きなれぬ表現にも戸惑ったが、ズバリ卵精巢 (ovotestis) に留めを指す。精巢と卵巢は、雌雄を決定付ける臓器。それを一つの性腺に収納してしまった暴挙、困惑。絶対矛盾的な自己欺瞞。この奇態な組織像をmonochromeではあるが、一葉の写真で掲載して見せた。確かに写真の左半分には卵胞を含む卵巢構造が示され、右側には糸屑にも見える精細管の集塊が誇示してある。然らば自己の精子で自らの卵子を受精させる危惧はないのか？心配無用、未熟な精巢はDenmarkのByskov女史の謂うMüllerian Inhibiting Substance (MIS)を産生分泌するので受精はできても受胎は不可能。

